



第38期 報告書

2012年6月1日 ▶
2013年5月31日

Contents

- 株主の皆様へ
- トップインタビュー
- セグメント別の概況
- シグマ光機の製品
- トピックス
- 株主アンケート結果報告
- 連結財務諸表
- 株式の状況／会社概要

経営理念

我社は光産業を通じ、社会に貢献します。

- 1) 絶えまない技術革新により、お客様へ価値ある製品を提供します。
- 2) 適正な利潤を得る事で、株主の皆様へ還元を行うと共に、社員の幸福を実現します。
- 3) 常に地球環境を意識した経営を行います。



代表取締役社長

森 淳二

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、創業以来、「光ソリューション・カンパニー」を目指し、弛まぬ技術革新により、お客様に価値あるレーザ用光学要素部品・光学ユニット製品等を提供してまいりました。

厳しい経営環境が続く中、グローバル市場での価格競争力と製品提案力の一層の強化により、高い収益性を持つ組織体制を構築し、「持続的な成長」と「企業価値の最大化」に最善の努力をいたす所存でございますので、今後ともよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

<シグマ光機グループの強み>.....

▶Point1：高い技術力とワンストップ・サービス

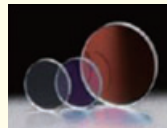
先端のレーザ応用技術分野・光学分野における専門性の高い研究者や技術者のニーズにワンストップでお応えしてまいりました。

▶Point2：研究開発分野での高い認知度とブランド力

高精度、短納期等の様々なニーズにお応えした結果、国内のトップクラスの研究機関の信頼を得て、数々の共同研究で実績を積んでまいりました。

▶Point3：国内外の生産・販売拠点を活用したグローバル対応

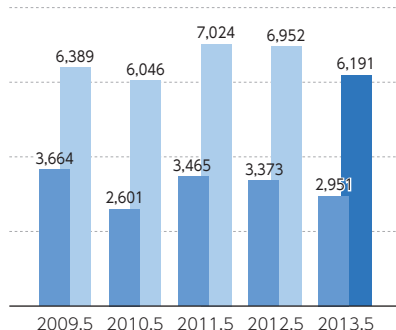
国内拠点のほか、米国や中国の生産・販売拠点を活用し、シグマ光機グループの総合力を活かしたグローバル展開を進めております。



売上高

61億91百万円
(前期比10.9%減)

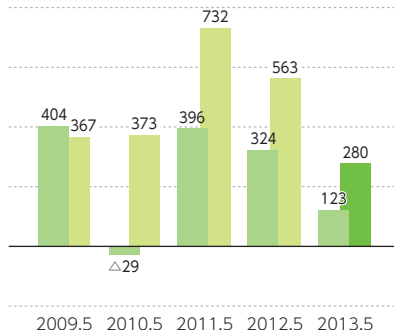
■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:百万円)



経常利益

2億80百万円
(前期比50.2%減)

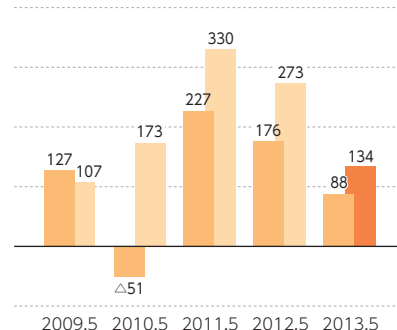
■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:百万円)



当期(四半期)純利益

1億34百万円
(前期比50.8%減)

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:百万円)



決算のポイント

●低調な研究開発投資・設備投資により売上高は減少

年度後半には光学要素部品・光学ユニット製品の需要動向に若干の改善の動きは見られましたが、世界市場の景気低迷を背景とした年度前半からの大学・官公庁向け研究開発分野での国家予算執行の低調な動きと、産業分野の研究開発投資の見送り、新規設備投資の抑制等の影響を大きく受け、売上高は減収となりました。

●積極展開のための経費増加により各利益が減少

売上高の減収に伴い、営業利益、経常利益、当期純利益は減益となりました。売上総利益も減益ですが、材料仕入や労務費等の売上原価の圧縮により売上総利益率は前期並みとなりました。しかし、販売管理費は、営業展開強化と生産技術開発等により販売促進費や試験研究費等の一部の経費が増加したため、利益を圧迫いたしました。



次期の見通し

●2014年5月期連結業績予想

売上高	71億30 百万円 (前期比 15.2%増)
営業利益	3億80 百万円 (前期比113.4%増)

経常利益	5億10 百万円 (前期比 81.8%増)
当期純利益	2億75 百万円 (前期比104.2%増)

Q 当期(2013年5月期)は減収減益となりましたが、その要因は何ですか？

当社の売上高ですが、大学・官公庁向けは研究開発予算の執行が停滞したこと、民間向けは世界的な景気低迷の影響による研究開発投資・新規設備投資の抑制・凍結に加え、お引き合いを頂戴しておりましたOEM案件も最終的に受注には至らず、減収となりました。

利益面では、こうした減収の影響に加え、円高を背景とした海外メーカーによる値引き攻勢、引き合い案件の技術検討作業や見積り作業等の販売促進費の増加、新製品開発や生産技術向上のための試験研究費の増加があり、大幅な減益を余儀なくされました。



Q 当期に取り組んだ施策としてどのようなものがあり、その成果はどうだったのでしょうか？

要素部品事業では、「生産技術の向上」と「内製化の推進」に取り組みました。具体的には、レンズ研磨では品質の安定と工程の標準化のための高速自動化を進めたり、薄膜製品においてはIBS装置を導入し高性能製品生産のための生産技術開発を図るとともに、内製化を推進しました。さらに、業務効率化やサプライチェーンの再構築による製造原価の削減等によって、減益ではありましたが、売上総利益率はほぼ前期並みの水準を維持することができました。こうした効率化と内製化を進めたことにより、売上が伸びれば利益の大きな伸びにつながるという体制が整備されたと考えています。

システム製品事業では「高付加価値ユニット製品の開発・市場投入」と「高品質・適正価格・短納期での提供による顧客満足度の向上」に注力しました。高付加価値ユニット製品としては加工用や観察用のレンズユニット等を開発・投入しました。こうした製品は、市場ニーズが確実にあるため、研究開発分野の高度化や産業分野の装置更新タイミングをうまく捉えていくことで、今後着実に売上増につながっていくと考えています。また、当社はワンストップのソリューションメーカーとして、光学設計、光学・機械加工、制御設計、装置組み上げ等に関するすべてのニーズに対応できる体制をもっていますが、その中でどれをピックアップすれば、お客様からのニーズに最適に応えられるかについても素早く解決策を提供できる体制が着実に整ってきたと考えています。

Q 次期(2014年5月期)は業績急回復を予想されていますが、その背景を教えてください。

大学・官公庁向けは、昨年発足した新政権による科学技術研究関連の予算増額で売上増を見込んでいます。民間向けも、研究開発投資や新規設備投資の次期中盤以降の投資意欲の改善に伴う需要回復、海外市場への展開強化により売上は増加するものと見ています。こうした投資意欲の改善や為替の円安基調への転換等により、引き合い件数も徐々に増えており、2013年5月期末の受注残も前期末に比べ増額されております。

利益面では、海外展開に向けたカタログ印刷費用等のコストアップはあるものの、過去から実施してきた「売上増を利益増に直結させる」生産改革の効果が出て、売上の伸びを上回る伸びを見込んでいます。

Q 今後の成長に向けた重点施策として、どのようなことをお考えですか？

主に3つの施策を考えています。まずは「カタログ販売の強化」です。豊富な製品を掲載した当社カタログは、これまでも国内の多くのお客様から高い評価を得ておりますが、次期は日本語・英語・中国語のグローバルカタログを発刊する計画です。さらに、営業体制もこれまでのアジア、北米・南米に加え、EUに拠点を新設し、カタログを有効に活用し、グローバルな営業展開を進めていきます。

次に、「レンズユニットへの注力」です。創業以来、弛まぬ技術革新を積み重ねてきた当社の中核製品であるレンズ等の光学素子製品は、大きな技術優位性があります。これらの製品をパーツとして販売するだけでなく、当社の光学設計技術と光学・機械加工技術を融合した高付加価値ユニットとして販売することで、システム製品事業の収益力の回復を牽引してくれるものと考えています。

そして「光ソリューションの提供」です。光の研究・開発用製品から、産業分野向けの部品・ユニット・システムまでを、問題解決提案で丸ごと受注できるワンストップ・サービスを提供する「光ソリューション・カンパニー」としての地位を確立したいと考えています。

Q 最後に株主の皆様メッセージをお願いします。

当社は、1977年の創業以来、レーザ用光学要素部品では国内業界のリーディング・カンパニーとしての地位を不動のものとしてまいりました。また、当期から、当社の事業姿勢を明文化したブランド・ステートメント「Light Solutions for Life®」を積極的に展開し、グローバルマーケットでの認知度向上を図っております。今後も、成長著しいグローバルマーケットへ積極的に進出するとともに、「光ソリューション・カンパニー」としてお客様のニーズに提案型のソリューション営業できめ細やかに対応することで、「持続的な成長」と「企業価値の最大化」に努めてまいりたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、格別のご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

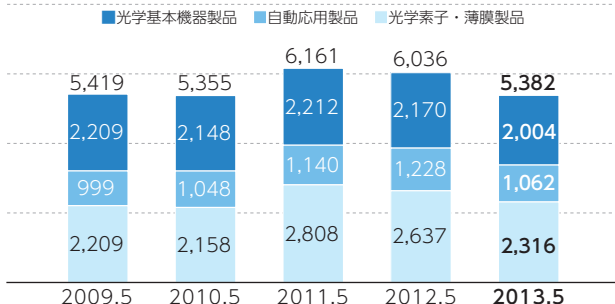


▶ 要素部品事業

53億82百万円（前期比10.8%減）

■ 売上高

(単位：百万円)



大学・官公庁向け研究開発分野では、昨年末の政権交代後から引き合い件数に徐々に回復の兆しは見えていますが、予算成立から執行までの時間が限られていることから売上高の増加効果は限定的であります。

また、民間企業向け研究開発分野での検査・製造装置の組み込み用途においては、バイオ業界向けの自動位置決め装置及び医療・通信業界向けの光学素子製品は一部堅調に推移するも、研究開発・設備予算の縮小・凍結、海外競合メーカーとの競争等により、新規研究開発用、装置組み込み用途の光学機器製品・光学素子製品は低調に推移いたしました。

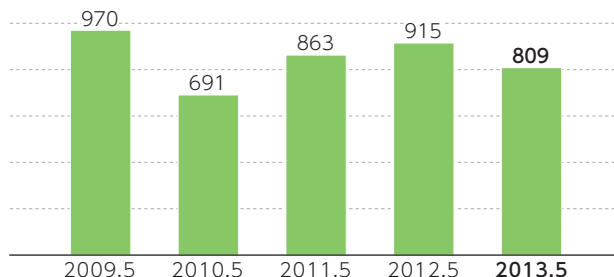
▶ システム製品事業

8億9百万円（前期比11.6%減）

大学・官公庁向け生物・医療研究用バイオ関連製品や民間企業向け研究開発用光学ユニット製品及び光学測定装置と観察光学系システム製品の需要は横ばいで推移しております。また、産業分野では携帯端末市場の需要増加により、半導体業界向けやモバイル用FPD業界向け検査装置用ユニット製品・レーザ加工機用ユニット製品の引き合いに復調の兆しは見えますが、全体として光学ユニット製品・光学システム製品は低調に推移いたしました。

■ 売上高

(単位：百万円)



》 海外グループの概況

オプトシグマコーポレーション（米国・生産販売会社）



Photonics West(米国)、LASER World of PHOTONICS(ドイツ)等の世界的展示会への大規模出展により「Brand Awarenessの向上」を図り、また「挑戦・改善・協力」する社風へと変革しながら、「お客様満足度No.1」を目指して活動しております。

上海西格瑪光机有限公司（中国・生産販売会社）



今年、上海西格瑪光机は創立20周年を迎えました。

お客様のご支援、各方面からのご協力ならびに先人たちの功績に感謝するとともに、これまで培ってきた技術、技術を礎に、明るい未来に向けて社員一丸となって更なるステップアップを目指します。

◆ 主要製品紹介

● 光応用技術を支えるシグマ光機のレーザ用光学要素部品

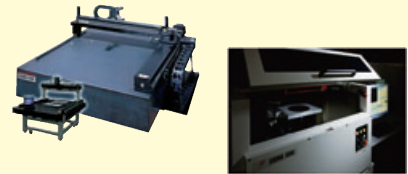
光応用技術の産業分野への拡がりに伴い、各種装置・設備にも高精度・高性能の光学要素部品が求められております。光学要素部品とは、レーザ光の進む方向やビームの大きさをコントロールするのに利用するレンズやミラー、プリズムなど（光学素子・薄膜製品）、そしてそれらを固定させるホルダーや微細な移動を実現するステージなど（光学基本機器製品、自動応用製品）で構成されます。研究・開発分野で培った長年の実績から、耐久性の向上や薄型化・組み込みやすい形状・低コストといった、産業分野向けレーザ用光学要素部品のラインナップを拡充しています。



こんなところにシグマ光機

■ 産業分野の生産現場

例えば、半導体や液晶パネルの表面に生じたキズや異物の混入はレーザ光を使って検査します。また、タッチパネルなどに使われるガラスの透明電極のパターン加工やスマートフォンに使われる積層基板の微小な貫通穴加工には、高精度のレーザ加工装置が使われます。このような場面で、シグマ光機製品の性能が発揮されています。



▶▶ ピックアップ/注目製品

● お客様の「欲しい」装置を形にするツール



FA用精密自動ステージを始め、主要ユニットをカテゴリ毎に規格化しており、豊富なカタログ標準品と組合せて短期間でアプリケーション構築が可能です。

UV接着やレーザ溶接による各種組立装置、画像処理を併用した各種検査・計測装置など、お客様の欲しい装置・仕様に柔軟に対応できます。

下半期 主要イベント

- 「アナリスト/機関投資家向け 平成25年5月期第2四半期決算説明会」開催
- 「中学生社会体験チャレンジ事業」参画(本社・日高工場)
- 光の寺子屋**「光の寺子屋」開催(墨田区立東吾嬬小学校)

2013年

1

- 「SPIE PHOTONICS WEST 2013」出展(米国・サンフランシスコ)
- 光の寺子屋**「光の寺子屋」開催(安田学園中学校)

2

3

- 「LASER World of PHOTONICS China」当社代理店出展支援(中国・上海)

- シグマ光機(株) 創立記念日(4月11日)
- 「アナリスト/機関投資家向け 工場見学会」開催(本社・日高工場)
- 「Photonix 2013」出展(東京)

4

- 「LASER World of PHOTONICS in Munich」共同出展(独・ミュンヘン)
- 「レーザ安全セミナー」開講(東京本社 常設展示場)

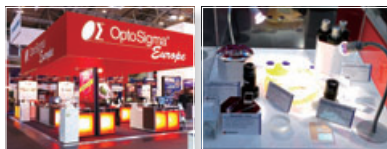
5

積極的なグローバル展開によるブランド認知度向上

シグマ光機グループは、販売店様との連携のもと、「Light Solutions for Life®」の標語を掲げ、世界市場における「ブランド認知度の向上」のために国内外の光学技術展示会に積極的に出展しています。『Photonics West 2013』(米国サンフランシスコ)、『Photonix 2013』(東京)に加え、欧州で最大級の光学展示会『LASER World of PHOTONICS in Munich』(独ミュンヘン)等に出展し、シグマ光機グループの「総合力」をアピールいたしました。



「Photonics West 2013」



「LASER World of PHOTONICS in Munich」



「Photonix 2013」

科学する心を育てる人材育成・地域貢献活動

当社では、大学や企業などと連携して、光科学分野の人材育成のため、「レーザ安全セミナー」を始めとする各種セミナーなどを開催し、光技術の発展に寄与しています。また、地域貢献活動の一環として、科学のおもしろさや驚きを体験してもらう「光の寺小屋(出張科学教室)」を展開しております。2013年1月には墨田区立東吾嬬小学校の児童を対象に、同2月には安田学園中学校の生徒を対象に実施し、子どもたちに「科学する心」の大切さを伝えています。



レーザ安全セミナー



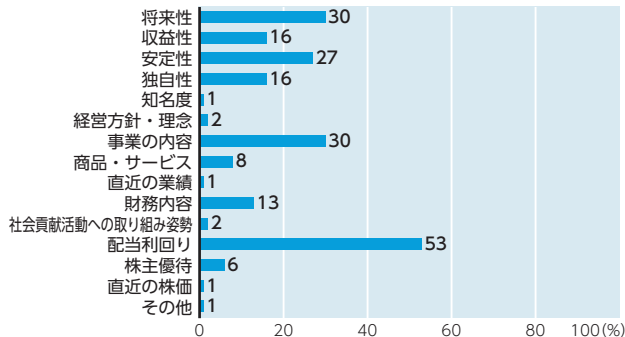
東吾嬬小学校



安田学園中学校

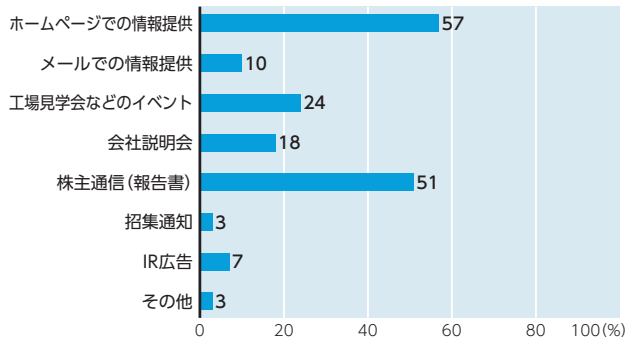
「第38期中間報告書」で実施させていただきましたアンケートにつきまして、アンケート対象の全株主様3,040名（2012年11月30日時点）の約3%に相当する86名の株主様からのご回答をいただきました。多くの貴重なご意見・ご要望をいただきましたことを、この場を借りて心より御礼申し上げます。お寄せいただきましたご意見・ご要望は、今後の会社経営及びIR活動に活かしてまいります。

Q あなたが当社に魅力を感じている点は何ですか？ （複数回答可）



配当利回りを重視されている株主様が多くいらっしゃいました。また、事業の内容や将来性に魅力を感じてくださる株主様も多く、当社といたしましては光産業の成長と発展とともに大きく発展できるように努力してまいります。

Q 充実を期待するIR活動についてお聞かせください。 （複数回答可）



多くの株主様が、ホームページでの情報提供とともに、株主通信（報告書）に高い期待を寄せてくださっておられました。より一層の情報提供の充実を図り、株主の皆様には「分かりやすい」「見やすい」IRツールの制作など、IR活動の充実に努めてまいります。

株主様からのご質問

Q 一般の人にも分かるように商品説明をしていただきたい。

A 当社の製品は、研究開発現場や生産現場で利用されることが多く、また製品種類も非常に多岐にわたっております。その中で、当社の代表的な製品について、株主の皆様にも分かりやすくご紹介させていただきました。6ページの「シグマ光機の製品」をご高覧ください。

Q 個人株主向けの会社説明会や役員懇談会などの実施を希望します。

A 当社では、毎年8月開催予定の定時株主総会の終了後に、ご出席いただいた株主様に対して、今後の当社の事業方針や製品開発情報をご報告する説明会を実施しております。当社経営陣と直接お話しいただける場ですので、ぜひご活用いただきたくお願いいたします。今後もこのようなイベントを増やしていくように努めてまいります。

ご意見のご紹介

- 御社製品を以前より使用しています。今後も安く良い製品を生産してください。
- 素晴らしい商品を製造しているわりに、PRが足りないせいか知名度が低いと感じます。

- 海外でも成長できる企業と期待しています。
- 長期保有を予定していますので、安定配当をお願いします。
- 株価はまだ低いので、IR活動の充実を期待します。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期 2013年5月31日現在	前 期 2012年5月31日現在
(資産の部)		
流動資産	6,069	6,614
固定資産	6,803	6,376
有形固定資産	3,164	3,155
無形固定資産	253	156
投資その他の資産	3,385	3,065
資産合計	12,873	12,991
(負債の部)		
流動負債	1,223	1,436
固定負債	739	717
負債合計	1,962	2,154
(純資産の部)		
株主資本	10,923	11,029
その他の包括利益累計額	△48	△223
少数株主持分	35	31
純資産合計	10,910	10,837
負債・純資産合計	12,873	12,991

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 2012年6月 1日から 2013年5月31日まで	前 期 2011年6月 1日から 2012年5月31日まで
売上高	6,191	6,952
売上原価	4,130	4,617
売上総利益	2,060	2,334
販売費及び一般管理費	1,882	1,906
営業利益	178	428
経常利益	280	563
当期純利益	134	273

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 2012年6月 1日から 2013年5月31日まで	前 期 2011年6月 1日から 2012年5月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	376	682
投資活動による キャッシュ・フロー	△730	△250
財務活動による キャッシュ・フロー	△209	△147
現金及び現金同等物に 係る換算差額	68	6
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	△495	290
現金及び現金同等物の 期首残高	2,155	1,865
現金及び現金同等物の 期末残高	1,660	2,155

》 解 説 ポ イ ン ト

● 連結貸借対照表

＜資産の変動＞

流動資産は、現金及び預金5億2千9百万円、受取手形及び売掛金6千1百万円の減少等により前期末比8.2%減少いたしました。固定資産は、投資不動産が7千6百万円減少いたしました。投資有価証券2億1千7百万円、投資その他の資産の「その他」1億5千7百万円、無形固定資産の「その他」9千7百万円の増加等により前期末比6.7%増加となりました。

＜負債の変動＞

流動負債は、長期借入金の1年内返済予定額が5千6百万円増加いたしました。支払手形及び買掛金1億5千2百万円、未払法人税等1億1千2百万円の減少等により前期末比14.9%減少いたしました。固定負債は、前期末比で3.0%増加となりました。

＜純資産の変動＞

純資産は、前期末比で0.7%増加し、自己資本比率は84.5%となりました。

● 連結キャッシュ・フロー計算書

当期の現金及び現金同等物の期末残高は、16億6千万円となり、前期末比で4億9千5百万円減少いたしました。

営業CFは、法人税等の支払い及び仕入債務の支払いによる減少と、売上債権の回収等による増加がありました。

投資CFは、投資有価証券の取得、有形・無形固定資産の取得、及び保険積立金の積み立てによる減少がありました。

財務CFは、配当金の支払いによる減少がありました。

■ 株式の状況 (2013年5月31日現在)

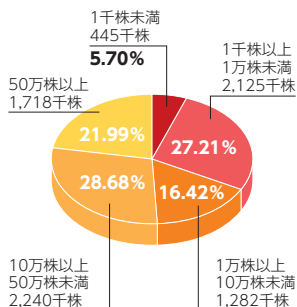
- ①発行可能株式総数 32,000,000株
 ②発行済株式の総数 7,811,728株
 ③株主数 3,164名
 (前期末比97名増)

④主要株主

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
浜松ホトニクス株式会社	1,000	13.27
森 聡二	718	9.53
シグマ光機取引先持株会	419	5.56
竹田和平	233	3.10
シグマ光機従業員持株会	231	3.07
株式会社埼玉りそな銀行	203	2.69
富国生命保険相互会社	200	2.65
株式会社サンライズクリエート	164	2.18
竹田本社株式会社	152	2.02
杉山大樹	146	1.93

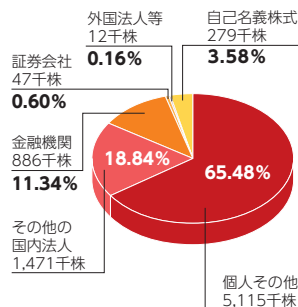
- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
 3. 持株比率は、自己株式 (279,328株) を控除して計算しております。

所有株数別株式分布状況



※自己名義株式 (279千株) を含んでおります。

所有者別株式分布状況



■ 会社概要 (2013年8月29日現在)

社名	シグマ光機株式会社
本社	埼玉県日高市下高萩新田17番地2
設立	1977年 (昭和52年) 4月
資本金	26億2,334万円
従業員数	357名 (2013年5月31日現在)
役員	代表取締役社長 森 聡二 専務取締役 近 藤 洋 介 取締役 水 村 峯 夫 取締役 原 口 康 史 取締役 山 口 秀 一 取締役 菊 池 健 夫 取締役 田 坂 隆 昌 取締役 小 林 祐 二 常勤監査役 大 野 昭 夫 監査役 大 野 隆 久 監査役 野 崎 昭 司

- (注) 1. 小林祐二氏は社外取締役であります。
 2. 大野昭夫氏、大野隆久氏及び野崎昭司氏の3氏は社外監査役であります。
 3. 常勤監査役 大野昭夫氏は独立役員であります。

❖ 主な事業所

- 本社・日高工場 ● 東京本社 ● 大阪支店
- 九州営業所 ● 能登工場 ● 技術センター

❖ 関連会社

- オプトシグマコーポレーション
- 上海西格瑪光机有限公司

当社の報告書は、「UDフォント」を採用しています

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン(UD)書体を使用し、弱視・老眼等視力の低下にお悩みの方にも読みやすいよう配慮をしております。



株主メモ

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会 毎年8月開催
基準日 定時株主総会 毎年5月31日
期末配当金 毎年5月31日
中間配当を行う場合は、毎年11月30日

単元株式数 100株
公告方法 電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
電子公告URL <http://www.sigma-koki.com/>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031 (通話料無料)
(インターネット ホームページURL)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座(特別口座といます。)を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご注意ください。

〈特別口座に関するご照会先〉

(特別口座 口座管理機関) みずほ信託銀行株式会社
(郵便物送付先) 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-288-324 (通話料無料)

株主の皆様の声をお聞かせください

当社は、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、
アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7713

いいかば

検索



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjfm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からも
アクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、
右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。

(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com



シグマ光機株式会社

東京本社 東京都墨田区緑1-19-9
TEL.03-5638-8221 (総務部)

